

(2) ごみ減量大作戦について



ごみ減量大作戦

～ 3年間の取り組み～

福島市環境部ごみ減量推進課

福島市のごみ排出量の現状

<令和3年度（ごみ減量大作戦後）>

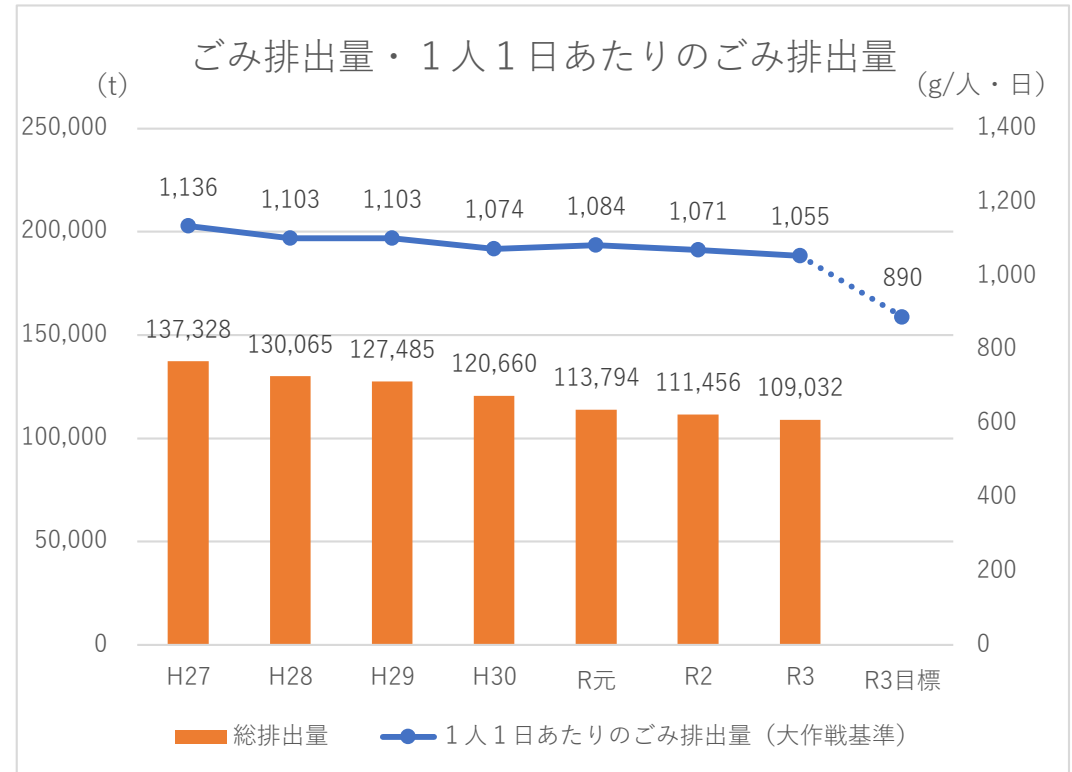
- ・福島市の1年間のごみ排出量
109,032 t
- ・1人1日当たりのごみ排出量
1,055 g

★3年間のごみ減量大作戦を終えて
目標値とした「1人1日当たり890g」は
達成できなかったが、

H29：1,103g

R3：1,055g

48gの減



◆平成30年11月22日 福島市廃棄物減量等推進審議会
『ごみ処理有料化の導入について（最終答申）』

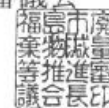
<次ページを参照>

平成30年11月22日

福島市長 木幡 浩 様

福島市廃棄物減量等推進審議会

会長 樋口 良之



ごみ処理有料化の導入について（最終答申）

平成27年7月2日、本審議会に諮問された「ごみ処理有料化の導入について」は、平成28年11月29日に中間のとりまとめとして答申いたしました。その後も審議を重ねた結果、ごみ処理有料化はごみの減量が期待できる有効な施策であるものの、原発事故の影響が未だ残っている状況下において、市民に新たな負担を求めることは慎重に検討すべきであり、ごみの減量化、資源化には意識の啓発、有料化以外の施策を積極的に展開することが必要と考えます。

しかしながら、福島市のごみ排出量が多いことには変わらないことから、一定の目標を設定し、ごみ処理有料化の方針を決定することが必要を考えます。目標を達成できなかった場合は、ごみの減量化・資源化の手段として、また、受益者負担の公平性の観点から、ごみ処理有料化もやむを得ないものと答申いたします。

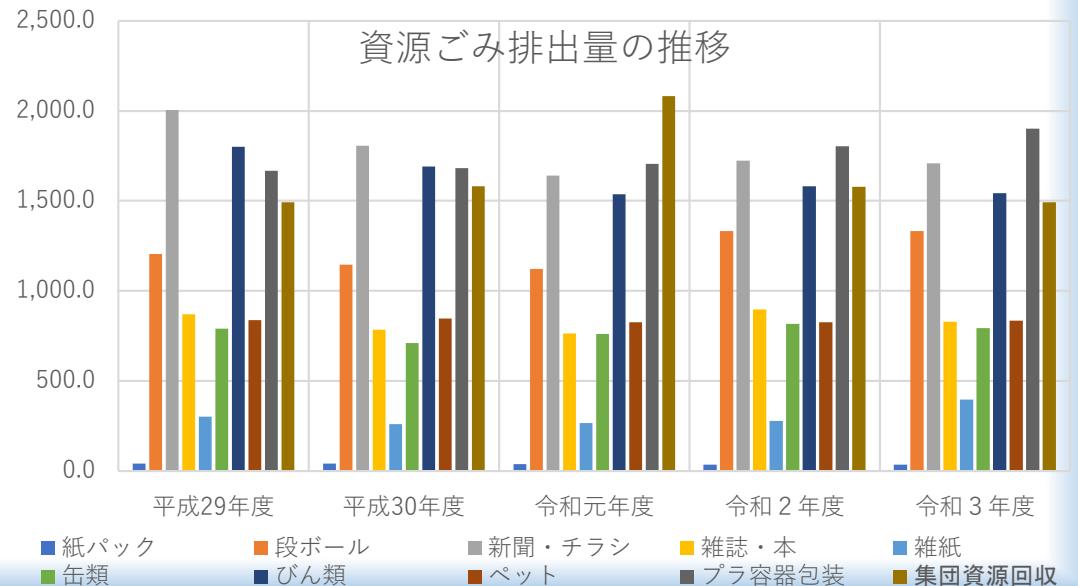
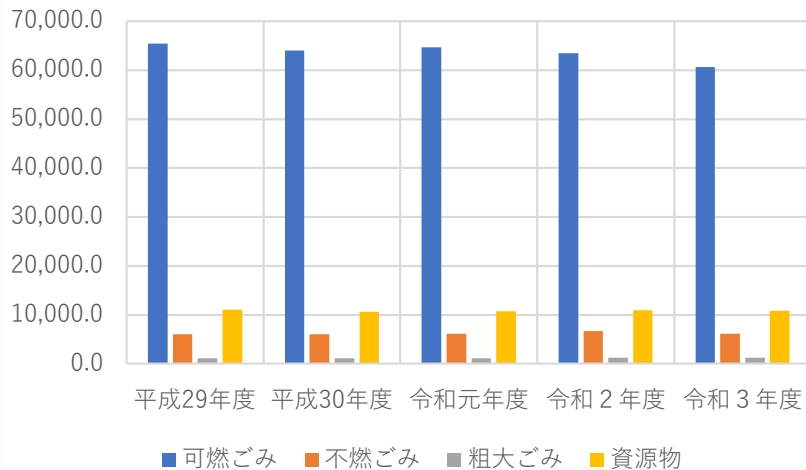
福島市におきましては、目標を達成できるよう、市民と協働し、さまざまなごみ減量化、資源化の施策を展開することを期待します。

「ごみ減量大作戦」の取り組み

令和3年度までに1人1日当たりのごみ排出量890g以下を目指し、4つの施策を掲げ、ごみ減量20%（平成29年度比）を目指してきました。

作戦 その1	生ごみの水切りの徹底 ～「水切り」はごみ減量への第一歩！～	生ごみの約80%が水分。「水切り」を徹底することで、ごみ減量、悪臭等の発生抑制、ごみ収集車の燃費向上、焼却工場の燃焼効率の向上等を図る。
作戦 その2	食品ロスの削減 ～つくる責任、つかう責任～	本来、食べられるのに捨ててしまう食品ロスは全国で年間約643万t（当時）。食品ロス問題の啓発を行うことで、ゴミの処理コストや環境への負荷の低減を目指す。
作戦 その3	分別の徹底 ～混ぜればごみ、分ければ資源～	分別の徹底を促し、限られた資源を有効活用することで、地球環境保全、公衆衛生の確保につなげる。
作戦 その4	堆肥化の徹底 ～捨てればごみ、活かせば資源～	家庭から出る可燃ごみの6割を占める「生ごみ」と「草枝類」。ごみ減量化の大きなポイントとなるこの2つを減らすため、堆肥化の促進を図る。

生活系（家庭ごみ）の推移



「ごみ減量大作戦」の施策 【作戦その1】

〔生ごみの水切りの徹底〕の主な事業

<p>地区座談会の実施</p>	<p>答申内容やごみの現状を説明するほか、「水切り」の実演を行い、生ごみ減量を図る。</p>	<p>令和元年度に、各支所・学習センター、地区集会所等計66カ所で計118回開催。</p> <p>【実績】参加者数1,426名（男性998名、女性438名）</p>
<p>水切りの普及啓発</p>	<p>環境フェスタ等で、「水切り器」を用いた「水切り」を実演し、水切りの方法や生ごみの減量の意義を説明。</p>	<p>水切り器を配布し、家庭での水切りを呼び掛けた。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くらし展：令和元年8月31（土）250個配布 ・環境フェスタ：令和元年10月6日（日）200個配布
<p>生ごみ処理容器の普及拡大</p>	<p>市政だよりやチラシ、SNS等を広く活用し、生ごみを乾燥させることができる生ごみ処理容器の購入費助成制度の利用拡大を図る。</p>	<p>利用件数は年々増加傾向にあり、生ごみの処理に対する意識の高まりが見られた。</p> <p>【実績】令和元年度91件、令和2年度128件、令和3年度172件。</p>
<p>ごみ減量出前講座</p>	<p>町内会や学習センターの教室、小・中学校において、出前講座を実施。ごみ減量と分別に加え、水切りの徹底を講演。</p>	<p>令和2年度は開催回数が少なかったが、町内会20回程度、小中学校10校程度に出向いた。</p> <p>【実績】令和元年度34回、令和2年度13回、令和3年度29回</p>

乾燥前〔58g〕

乾燥後〔10g〕



83%減量




< 総括 >

地区座談会において市のごみの現状と今後の取組を説明し、ごみ減量大作戦をスタートさせた。水切り器や生ごみ処理器利用者からは、その有効性を実感する声が聞かれたが、一方で、広報不足の声も聞かれた。可燃ごみの中で一番大きな割合を占める生ごみ対策はごみの減量に不可欠であるため、さらに市民1人1人への意識啓発を促すための取組を行っていく必要がある。

「ごみ減量大作戦」の施策 【作戦その2】

【食品ロスの削減】の主な事業

<p>おいしい食べきり 2020運動</p> 	<p>会食時の食べ残しを減らすため、東京五輪の醸成とともに、福島市独自に「最初の20分間と最後の20分間」の食べきり運動を実施。</p>	<p>飲食店やホテル・旅館などにポスター等を配布し、飲食店等に対し協力依頼を実施した。</p> <p>【実績】ポスター823枚、コースター19,959枚配布</p>
<p>福島市食品ロス削減 アドバイザー新設</p>	<p>専門的立場から福島市の食品ロス（生ごみの減量化）に関する指導・助言をいただくため、福島市食品ロス削減アドバイザーを令和3年度から新設。</p>	<p>令和3年度から新設。 ・アドバイザー：福田かずみ氏 ・委嘱期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日 （令和4年度も引き続き委嘱）</p>
<p>食品ロス削減講演会の 実施</p>	<p>食品ロス削減アドバイザー・冷蔵庫収納家の福田かずみ先生による講演会を実施。食料品の整理収納術等、食料の過剰除去になどに関する講演会を実施。</p>	<p>【令和2年度】 10月18日（日）開催、参加者50名 【令和3年度】※オンラインで実施 1月16日（日）開催、参加者30名程度</p>
<p>食品ロス削減 ダイアリー事業</p>	<p>身の回りで発生する食品ロスを意識することで、食品ロス問題やごみの問題に関心を持ってもらうため、食品ロス削減ダイアリーを作成。</p>	<p>家庭から出る食品ロス調査のため、一般市民から食品ロス削減市民モニターを募集し、令和3年10月の1ヵ月間、25世帯に協力していただき実施。そのほか、市内小学生全員に配布した。</p>
<p>食品ロス削減パネル展 の実施</p>	<p>食品ロス削減アドバイザー監修のもと食品ロスや冷蔵庫収納術等に関するパネルを作成。</p>	<p>スーパーなどでパネル展を開催。併せて、(株)ニチバンより提供を受けた「ワザアリテープ」の試供品を作成し、冷蔵庫整理術に関する広報を行った。</p>



< 総括 >

環境省の調査により、食品ロスの約半数は事業系、残り半数が家庭系のごみとされている。令和3年度には家庭系食品ロス実態調査を実施し、手つかずや食べ残しなどの食品ロスは、生ごみのうち約20%を占めていることがわかった。

市の3年間の取組やSDGsという言葉の浸透等により、食品ロスの意識は広がりつつある。今後もこれまでの取組を継続するとともにフードライブの強化等を図っていく。

「ごみ減量大作戦」の施策 【作戦その3】

【分別の徹底】の主な事業

<p>ごみ分別アプリ 「さんあ〜る」の 利用促進PR</p>	<p>若い世代にごみ問題への意識付けを図るため、アプリを導入。 大学生などの若い世代に加え、出前講座での周知も行き、幅広い年代への利用促進も図る。</p>	<p>市政出前講座や福島大学、宅建協会等で利用促進のPRを行った。 【実績（新規登録者数）】令和元年度4,443件、令和2年度5,575件、令和3年度5,533件 (令和3年度未登録者総数17,330件)</p>
<p>リサイクルできる紙類 の分別の徹底</p>	<p>令和元年度組成分析の結果、家庭から出る可燃ごみで出されている「紙類」のうち、4割以上がリサイクルできる紙類だったことから、紙類のリサイクル促進のため、排出方法・分別収集の見直しを実施した。</p>	<p>令和2年6月1日より、新聞整理袋や紙袋（紙マーク有）での排出を可能とすることで、分別しやすい環境を整えた。 また、令和3年4月から紙マークの有無に関わらず、「雑紙」として排出可能とした。</p>
<p>使用済はがきの 回収事業</p>	<p>個人情報が含まれているため、可燃ごみとして捨てられている暑中見舞いや年賀状などの使用済はがきを回収し、個人情報を守りながらリサイクルできる環境を整備した。</p>	<p>令和2年7月31日より、ももりんエコポストを設置。 【設置窓口】本庁・各支所など19カ所 【回収実績】令和2年度154kg、令和3年度324.7kg</p>
<p>市内事業所のごみ減量 の協力店舗紹介</p>	<p>福島市ホームページに、各店舗・事業所での取り組みを「ごみ減量大作戦協力事業所・店舗」として掲載した。</p>	<p>ごみ減量大作戦協力事業所・店舗認定制度を令和3年2月から開始。 【実績】令和2年度3事業所（41店舗）、令和3年度8事業所（61店舗）</p>



< 総括 >

紙類の排出方法の見直しにより、「雑紙」（令和2年度までは「その他紙製容器包装」）の収集量が約40%増になるなど、分別の効果が得られた。また、「さんあ〜る」の導入により登録者が17,000件を超え、デジタル化の推進が図られた。

今後更なる資源化を促進するため、古着や絵本など新たなリユース事業の検討が必要。

「ごみ減量大作戦」の施策 【作戦その4】

【堆肥化の徹底】の主な事業

ダンボールコンポスト 購入費助成事業	一般家庭から排出される生ごみ等の減量化及び資源の再利用に対する市民の意識の高揚を図るため、ダンボールコンポスト購入費の一部を助成する。	特別販売価格2,000円（通常価格2,970円）のうち1,000円を助成することで、市民が利用しやすい環境を促進した。 【実績】令和3年度310件（申込件数328件）
ダンボールコンポスト 活用事業	小中学校において、ダンボールコンポストを活用した生ごみの堆肥化を実践。子どもたちのごみ問題や環境問題に対する関心を育てる。	ごみの減量に関心の高い学校の参加がみられた。単に配布で終わることなく、業者との連携により経過観察を行うことができ、好評を得られた。 【参加校】5校14クラス
家庭用剪定枝破砕機 貸与事業	市民及び町内会に破砕機の貸し出しを行い、庭木等で発生する枝葉の有効利用チップ化（堆肥化・マルチング材として活用）を促進し、ごみの減量化・資源化を図る。	福島県廃棄物削減モデル事業（「福島市モデル」）を活用した事業を展開した。 （※令和4年度は福島市独自に実施中） 【実績】令和3年度185件（7月12日～12月28日）
落ち葉等たい肥化事業	落ち葉等のたい肥化を進めるため、「タヒロン」を用いて、市・町内会等から出る草類の減量を図る。	【実績】 ・市：新浜公園4台設置 ・町内会等：15町内会に17台設置 （令和4年度は新浜公園の4台を支所もしくは学校等に設置するように調整中）



< 総 括 >

ごみが「堆肥」になるという、資源化を実感できる取組であり、取り組んだ市民からはごみの減量効果を実感する声が聞かれた。一度実践した方は、取組を継続する傾向にあるが、更に多くの市民に広げていくためには、広報やきっかけづくりを推進していく必要がある。

「ごみ減量大作戦」の総括と今後について

3年間にわたり様々な減量施策を展開し、多くの市民の皆さんに参加していただきました。この大作戦と一緒に取り組んでいただいた市民の方からは、ごみ減量に対する意識の向上と取組の重要性を実感する声が多く聞かれました。この3年間には、コロナ禍や2度の大きな地震、台風被害など、予測できない様々な災害等が発生し、全国的にごみの排出量が増加している中、本市においては減少が続いていることは、この大作戦の取組とともに、市民の皆さんそれぞれが努力していただいた結果であると捉えています。

しかし、この3年間の取組の中で見えてきたことは、ごみ問題に関心のある方の取組が進む一方、関心の薄い方々へ、市の啓発が届いていない、又は取組に結び付いていないということです。これは、地区座談会や、参加者アンケート等でも聞かれたご意見でした。ごみの減量は、一部の市民の努力だけで成しえることはできません。より取組のすそ野を広げ、市民1人1人が同じ目的に向かって実践できるように、市の取組にもより一層の仕掛けが必要であると認識しています。

「ごみ減量大作戦」は、目標の達成には至りませんでした。この3年間で発生したコロナや災害がごみの排出量へどのように影響を与えているか十分な検証を行い、その結果を踏まえた上で、あらためてごみ処理有料化を含めた今後の減量施策について検討してまいります。